

宿縁

十一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺
TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

向こうから

先に来ている



あと少しで三年に達する新型コロナ禍はまだ収束するめどもたっておりません。誰もが何らかの影響を受け苦しんでいます。いま青春真っ盛りの学生さんたちも気の毒な状況に置かれています。
やっと希望の学生生活のスタートも入学式が縮小されたり、卒業にあたっても祝ってくれる家族や先輩たちの出席が制限されたり、修学旅行もなし、授業もリモートであったり等々、ストレスを抱える若者が増えていくようです。

そんな状況の中で同居する孫娘の通う高校で四泊五日の修学旅行が実施されました。

旅行から帰った彼女の口から思いがけないような感動の話を聞きました、

「旅行中、広島の実験資料館を訪れた時のことです。そこに展示された原子爆弾投下直後の光景や遺品などを見ていて涙がこぼれてきてどうしようもなかった。見終わってその涙顔のまま外に出てゆくの戸惑いがあったが外に出ると、空にかかる見事な虹の景色が飛び込んできた。そのとたん、また涙がぼろぼろと溢れ出てきてどうしようもなかった！」と話すのです。

それを聞いた私は、かつて訪れた原爆資料館のことを思い出しながら、そう話す彼女のその時の感動が心に強く映りました。過ぎ去った出来事や亡き人たちは決して過去ではなく、今ここに生きる私の上に存在しています。時間というものは、過去、現在、未来という風に直線的に考えがちですが、仏教は時間というものは円環性のものだと教えます。

いまの私という存在は私一人で成り立っているのではなく、常に先人の上に成り立っている連続し続けるいのちなのです。彼女の感動が心をゆすぶったのは、彼女の心に入ってきた亡くなった人たちの叫び

が彼女の心いっぱいに入ってきたからです。私を激しく心動かしたものが先に来て届いたからです。そう考えを巡らせてみると外に出た瞬間に見た虹の感動も、その景色が私の中に先に飛び込んできたからわが心がゆすぶられたといえるのです。

虹を描くとき皆さんはどう絵で表現しますか？

海や大地があつて空にかかる虹は半円形ですね。しかし実際の虹は円だそうなんです。もう半分は見えただけです。見えなくても実態はそうなのです。

さとの真実とその真実に導く仮の形相と偽りの世界を顕された親鸞聖人の根本聖典『教行信証(きょうぎょうしんしやう)』結びに次の言葉があります。

「前(さき)に生れんひとは後を導き、後に生れんひとは前(さき)を訪(とぶら)へ、連続無窮(むくう)にして、願はくは休止(くし)せざらしめんと欲(ほつ)す。無辺の生死海(しようじかい)を尽(つ)さんがためのゆえなり。」

(前に生れるものは後のものを導き、後に生れるものは前のものあとを尋ね、果てしなくつらなって途切れることのないようにしたいからである。それは、数限りない迷いの人々が残らず救われるためである)

生れるとは、真実の世界(光明浄土)に目覚めることを言います。後に生れるものとは、真実のありように遠く離れた世界にいる人です。連続無窮とは、絶えず先人はいまここに生きる迷いの私を導きはたらいて少しも離れていないということです。

過去は過ぎ去ってしまった世界ではあり

ません。今に係わっているのです。

人間の知性だけを頼りに生きていこうとするもの、科学的証明のみを信じる傾向がますます強くなってきた現代は、いつも主語が私です。この思想には必ず行き詰まりがあることを知りました。

インドのヒンディー語は与格(よかく)よかく(に)という文法が用いられているそうです。

私たちの日常の文法は主格(しゅかく)しゅかく(は)が必ず先にあります。例えば「私は嬉しい」が普通と思つていますが「私に嬉しさが留まつている」と表現するように、行為が意思の外部に規定されているとき、この与格(に)を用いるのです。

わかりやすく言えば、自分の意志や力が及ばない現象については「与格」を使って表現する。これはなるほどと思つます。

要は自分の行為や感情が人力ではどうすることもできないことによつて作動する場合をヒンディー語では「与格」を使うのです。考えてみると「うれしい」「悲しい」という感情も、私の意志によつてコントロールしているわけではありませぬ。自ずと湧き上がってくるものです。

先ほどの孫娘が修学旅行での原爆資料館の展示されたものを見て涙し、外に出たときに目にした虹に涙がとめどなく頬を伝わったというのも、自分では統御できない行為です。

親鸞聖人はすべてのものが救われるのは「阿弥陀仏の本願他力(ほんがんとりきりき)」によるといわれました。自力による計らいが、常に向こうからはたらきかけを受け入れる私の器を硬く閉ざします。

【寺灯雑記】

○大盛況の文化講演会

10/22

今年で三十二回目を迎える文化講演会が市川駅そばの山崎製パン企業年金基金会館を会場に開催され、約百六十名名ほどのかたがご参加くださいました。

「利他と他力」との講題で、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授の中島岳史先生にご講演いただき、身近な話題や著名な方たちの言葉を紹介しながら、自らの計らいを超えたはたらきが私の身に届いている「利他」について、わかりやすく丁寧にお話しくださいました。

左記に参加者皆様からの感想をご紹介します。

○今後の生き方（生活の仕方）に参考にさせていただくことができそうで、有難くうれしい気持ちになりました。

○「利他」というのは単に他を思いやること、助けることというだけではなく、そこに利己的な欲がないか傲慢になっていないか常に考えていくのが大事なのだと思認識を新たにしました。

○難しいテーマをわかりやすく話していただき納得することばかり、ありがとうございます。

○汲みつくすことのできない深遠な講話に釘づけになりました。レジュメに紹介されている本を参考にして、少しでも自分のものになりたいと思いました。本当に感動のひと時でした。

○今をのりこえていく力としての、多くの適切なキーワードをありがとうございます。

○学びの多い講演をありがとうございます。すでに受け取っていることに気づくこと、その人に合わせることに、偶然に外部に規定されていることをもって自覚して意識して生活していきたいと思えます。

○偶然通りすがりで知って入場しました。この機会を与えていただいたことが正に他力なのでしょう。

○「利他」の意味の具体例の中から感じとりました。やってくるもの、やどる他力のイメージがわかりやすく、大変勉強になりました。

○考え方の方向を変えて自我を捨てるつもりの方の生き方をして、社会が仲良くなれることを祈ります。

○利己主義はよく聞出し、多く見かけますが、利他のすばらしさには、なかなか気づきませんでした。素晴らしい講演でした。

○若い先生が人生の生き方をお話しいただき、学生の方はこれからの人生に大きな力になることでしょう。高齢者にも大きく響きました。偶然の力大切にしていきたいと思えました。

【ブツダの教え 「お経」のことば】

「縁と生滅（しょうめつ）」

人びとの苦しみに原因があり、人びとのさとりには道があるように、すべてのものには、みな縁（条件）によって生まれ、縁によって滅びる。

雨の降るのも、風の吹くのも、花が咲くのも、葉が散るのも、すべて縁によって生じ、縁によって滅びるのである。

この身は父母を縁として生まれ、食物によって維持され、また、この心も経験と知識によって育つたものである。

だから、この身も、この心も、縁によって成り立ち、縁によって変わるといわなければならぬ。

網の目が、互いにつながりあって網を作っているように、すべてのものは、つながりあってできている。

一つの網の目が、それだけで網の目であると考えれば、大きな誤りである。

網の目は、ほかの網の目とかかわりあって、一つの網の目といわれる。網の目はそれぞれ、ほかの網の目が成り立つために、役立っている。

花は咲く縁が集まって咲き、葉は散る縁が集まって散る。

ひとり咲き、ひとり散るのではない。『勝鬘経』

【法要・法座・行事のご案内】

○お仏具磨き・清掃奉仕

十一月五日(土) 十時

動きやすい服装でご参加ください。

○婦人会法座

十一月五日(土) 一時半

・御文章に学ぶ(一帖第十三通) 前任職
・仏教讃歌と座談会

○壮年会法座

十一月五日(土) 一時半

・御文章解説(一帖六通) 住職

・意見交換

○子育てサロン(パンダっ子)

十一月十四日(月) 十一時～二時

☆報恩講法要修行

*お逮夜法要

十一月二十日(日) 午後二時

勤行：初夜礼讃、御伝鈔拝読

法話 住職、前任職

*満日中法要

十一月二十一日(月) 午後一時

勤行：正信念仏偈、仏教讃歌

法話 山崎龍明師(小平市 法善寺)

「宗教に三種あり(親鸞聖人)」

—真、仮、偽—

親鸞聖人のご生涯を絵で表した「御絵伝」を今年より新調いたしました。是非とも本堂にてご覧になって、聖人のご遺徳を偲ぶとともに念仏のみ教えをお伝えくださった感謝の法要をお勤めいたしまし

※時間の変更にお気を付けください。

両日ともにお斎の接待はございません。ご了承ください。

○教行信証を学ぶ

十一月二十六日(土) 二時

・方便化身土巻 前任職

【十一月の掲示板のことば】

いのちの長さより
いのちの質が大事